

令和8年度 第2回 桜木中学校 学校運営協議会議事録

開催日時・場所

日時：令和8年7月15日（水） 16:00～17:30

場所：桜木中学校

役職	氏名	所属・役職
委員長	五十嵐 佳緒	世田谷小学校・桜木中学校 青少年委員
委員	深美 明香	上町地区主任児童委員
委員	門屋 貴久	日本体育大学 准教授
委員	岡本 ひとみ	前学校関係者評価委員会 委員長
委員	立川 宰輝	桜木中学校PTA会長
委員	ラム 文里	桜小学校PTA
委員	三田 恵	世田谷小学校PTA
委員	野村 風歌	桜木中学校 卒業生
委員	中村 幸子	桜木中学校PTA役員
委員	菊地 智子	桜木中学校PTA役員
委員	石井 達也	桜木中学校校長
事務局	市原 一	副校長
事務局	山元 良太	経営主任

議題

1. 1学期のまとめ

(1) 学校行事について（1学期の教育活動について学校より報告）

● 修学旅行

3年生が宮古島への修学旅行を実施。環境学習や自然体験、星空観察などを通して、多様な文化や自然について学ぶ機会となった。全日程を通して大きな事故や体調不良もなく、安全に実施できた。

● 体育大会について

天候にも恵まれ予定どおり実施。団体競技を中心に、生徒同士が励まし合い協力する姿が多く見られた。振り返り作文からも達成感や仲間との絆が感じられ、教育的効果の高い行事となった。

● 定期考査

定期考査前には多くの生徒が図書室で自主学習に取り組む様子が見られた。

(2) ボランティア・地域連携について

地域環境美化清掃活動、小学校運動会、防災デーなど地域活動へ積極的に参加した。経堂まちづくりセンターをはじめ、多くの地域の協力を得ながら教育活動を実施した。地域行事への参加を通して、生徒の社会貢献意識や地域とのつながりが深まった。

(3) 授業・特色ある教育活動について

授業改善に向け、校長による授業観察を積極的に実施した。特色ある教育活動として、日本文化体験（鯉節削り・浴衣着付け）、租税教室（税理士による講義）、SOSの出し方教育（SCによる授業）、弁護士によるいじめ防止プログラムを実施した。特にいじめ防止プログラムでは、人権の視点や傍観者の役割について学び、生徒が安心して学校生活を送るための理解を深めた。

委員からは、人権教育は大人にも必要な内容である。傍観者の役割について学ぶことは地域社会にも重要である。教職員も互いに意見を言い合える環境づくりが、生徒への教育にもつながる。などの意見が出された。

(4) 特別支援について

別室登校支援「すてっぷルーム」の取組について報告があった。教室に入りづらい生徒の居場所として活用している。学生ボランティアや地域人材と連携しながら支援を継続している。生徒が学校とのつながりを維持できるよう、一人一人に応じた支援を行っている。

2. 学校からの提案・相談

(1) 令和9年度 創立80周年記念事業について

校長より、令和9年度に迎える創立80周年記念事業について説明があった。

- **目的**：80年という節目を迎えるにあたり、学校の歴史を学ぶ。学校を支えてきた方々への感謝を育む。生徒が未来の桜木中学校を考える機会とする。
- **基本方針**：生徒の学びにつながる周年事業とする。教職員・保護者への負担を増やさない。現在の教育活動を活用する。
- **実施内容（案）**：区立中学校14校合同記念式典へ参加。学芸発表会を「80周年記念学芸発表会」として開催。生徒会を中心に実行委員会を組織し、生徒主体で企画・運営する。地域住民を招待し、学校の歴史を振り返る内容とする。記念誌は簡素化し、記念品についても費用対効果を考慮して検討する。

委員からは、生徒主体の取組が教育的価値につながる。地域から学校の歴史を学ぶ機会があるとよい。思い出に残る体験を重視した周年事業が望ましい。などの意見が出された。

(2) 令和8年度 学校評価について

学校評価制度の変更について説明があった。今年度からは学校運営協議会が学校の自己評価を確認し、改善に向けた助言を行う形となる。

委員からは、評価項目は分かりやすく整理した方がよい。保護者に学校の取組が伝わる内容にしたい。学校改善につながる建設的な意見を出していきたい。との意見が出され、評価項目については次回協議会で最終確認を行うこととなった。

(3) 放課後学習支援

学校から、地域人材による放課後学習支援について協力依頼があった。定期考査前を中心に図書室で自主学習する生徒の見守りをお願いしたい。支援内容は学習指導ではなく、安全に学習できる環境づくりを目的とする。

委員からは、見守り中心であれば参加しやすい。支援コーディネーターを中心とした運営が望ましい。保護者・地域住民へ個別に声掛けする方法も有効ではないか。との意見が出された。

(4) 職場体験

受入事業所の確保について協議した。生徒数の増加に伴い、近隣での受入先確保が課題となっている。

委員からは、不動産業、福祉施設、農業、図書館、IT企業、動画配信、病院、社会福祉協議会などが提案され、リモートワークの職業は校内での体験もできるのでは？など多様な職種の提案があった。今後も地域ネットワークを活用しながら受入先の拡充を進めていくこととなった。

(5) 学校サポーター（すてっぷルーム支援）

すてっぷルーム支援に関する協力依頼があった。学校からは、午前中を中心とした地域人材の協力、学生ボランティアや学校生活サポーターとの連携、給食時間帯を含めた支援体制の充実について説明があった。

委員からは、教員志望の学生にも貴重な経験となる。地域住民も参加できる仕組みづくりが望ましい。継続的な支援体制が重要である。との意見が出された。

3. 学校からの報告

(1) 人事異動

特別支援教室専門員の人事異動について報告があった。

(2) 公募

地域・保護者が求める教員像や、桜木中学校に必要な人材について話し合い、今後も地域と連携しながら学校づくりを進めていくことが確認された。

次回開催

9月10日（木）16時より